好事例様式

「　地域の中小企業と地方大学を結びつける、課題解決型産学連携　」

（阿波銀行）

1. 取組みを始めるに至った経緯、動機等

・平成25年2月、徳島大学との間で連携協力協定を締結した。両者の保有する研究技術、情報およびノウハウを活用して、地域の産学連携を推進し、地域の発展と産業の振興に寄与することを目的としている。
・提携をリリースし地方紙や全国紙でも取り上げられたが、待ちの姿勢では案件が出てこなかった。当初8ヶ月間で、徳島大学と当行のお客さまとの面談は3件にとどまった。大学の技術シーズの企業への移転も進まなかった。

2. 具体的な取組み内容

・徳島大学との定期協議の場で両者協同による「ものづくり企業」への訪問を提案し、25年10月に着任した産学連携担当の教授（四国TLOの役員を兼任）と、11月から個別企業訪問を開始した。約1年半で徳島大学及び四国TLOと当行のお客さま76社を引き合わせ、企業の抱える課題抽出・課題解決に、大学と共に取り組んだ。
・両者の得意分野を活かして補完関係を構築し、企業訪問から新規事業の事業化まで、連携してサポートしている。
　阿波銀行　⇒　「企業ネットワーク」「ビジネスプランニング」「認定支援機関」「つなぎ融資」「新規事業融資」
　徳島大学　⇒　「技術課題抽出力」「課題解決力」「政府系研究開発資金獲得能力」

3. 実施にあたり工夫した点（関与のポイント・推進体制面・PDCAサイクル面等）

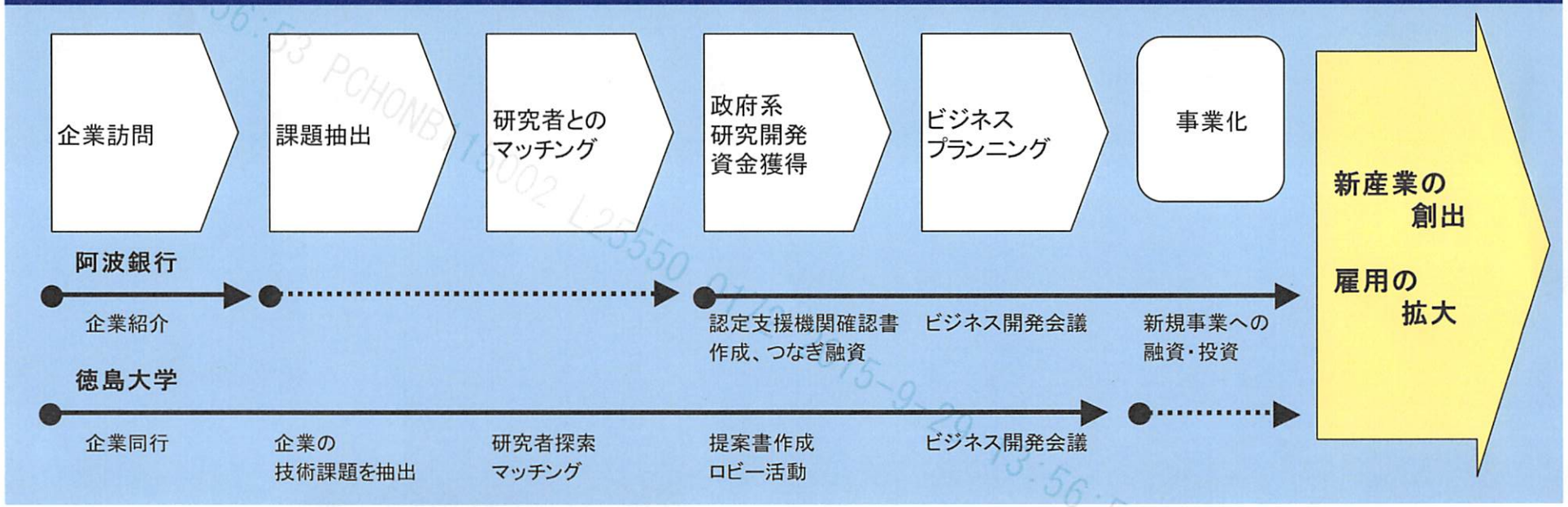
＜公的助成金の活用＞
・自己資金による研究委託は中小企業には敷居が高いため、「ものづくり補助金」等の公的助成金を活用している。
・設備導入の補助金相談を受けた場合でも、事業内容によっては大学に協力を要請　⇒「ものづくり」に意欲があるなら、共同研究に進む
＜ビジネス開発会議＞
・新規事業分野で共同研究が進捗している案件では、開発企業、徳島大学（研究者、弁理士、産学連携担当）、当行（中小企業診断士）と、新事業のユーザー候補になると考えられる企業から構成される、「ビジネス開発会議」を実施している。
・中小企業の弱みである「知的財産の取得」「ビジネスプラン作成」「販路開拓」などについて専門家の助言により解決案を提示し、事業化の加速を促している　⇒　「研究開発」と「ビジネス構築」の両面から地域の中小企業をサポート

4. 取組みの成果（取組み中の場合は目標値・KPI等）

・進行中の案件は44件、共同研究が進行中または確定している先が17社となっている。採択された補助金は16件、約260百万円。
・地方創生において「ローカルイノベーション」を促進させるためには、「課題解決能力を持つ地方大学」と「地元企業を知る地方銀行」の連携が有効であることを実証できたと考えている。

5. スキーム図等（図表・写真等も必要に応じて貼付）

課題解決型の産業連携における、地方銀行と地方大学の補完関係



《事例1》

湿式ステンレス研磨装置（石原金属㈱）

・従来の手法では困難な、歪の少ないステンレス研磨を実現。

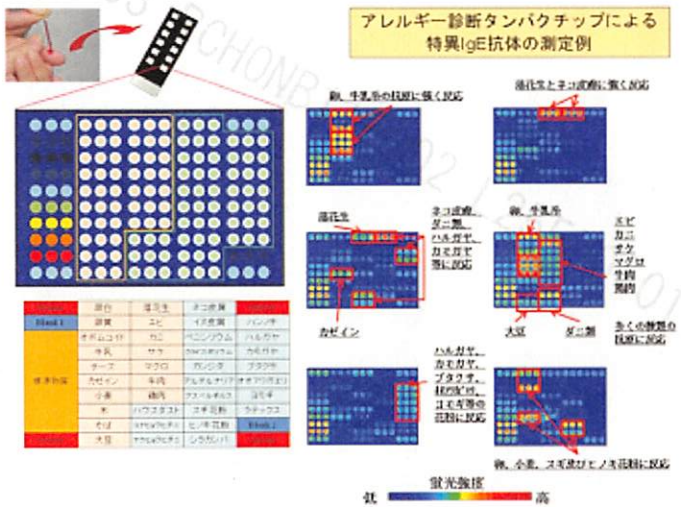
・企業紹介からビジネスプランニングまで、一貫した支援を実施。

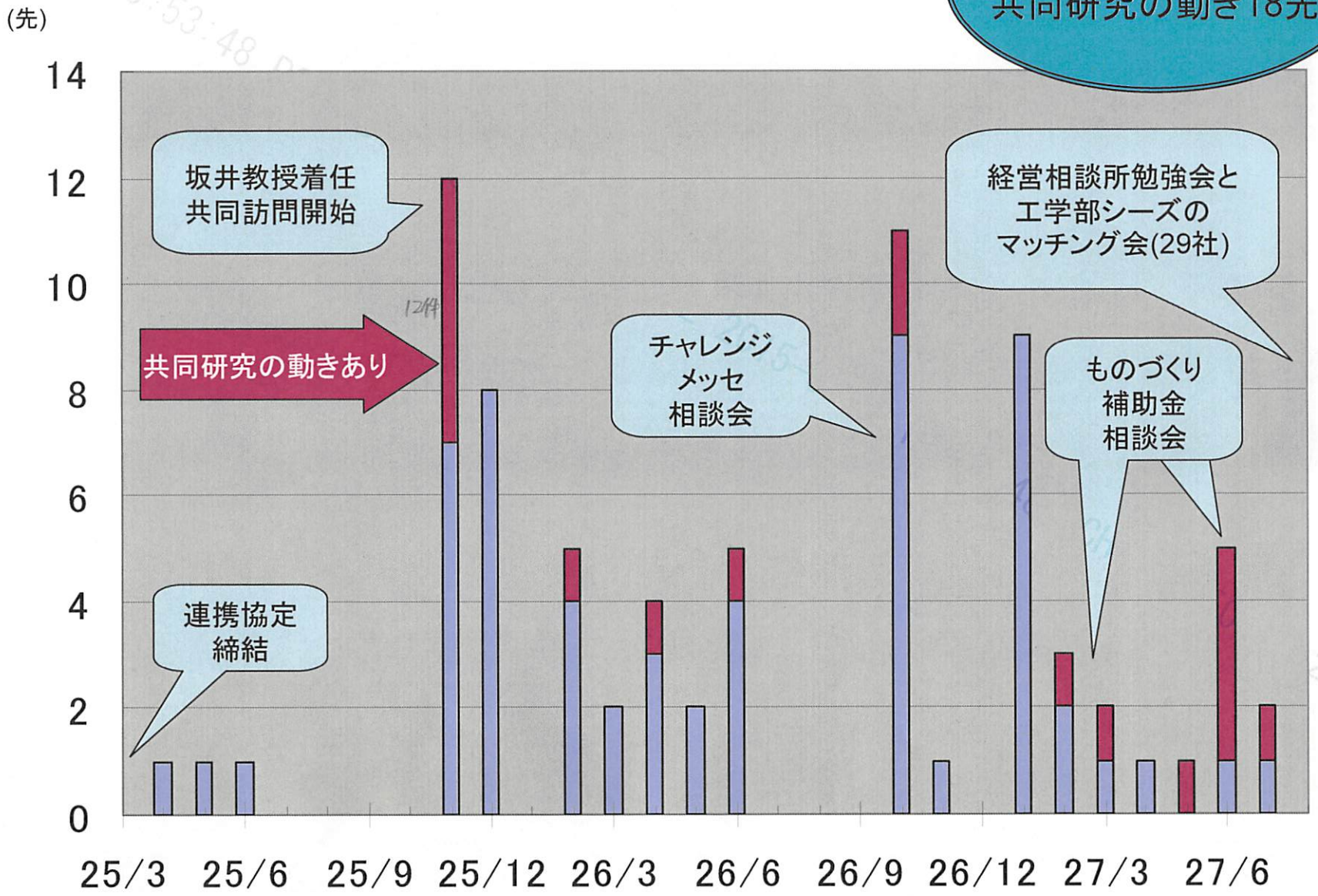
《事例2》

アレルギー診断タンパクチップ（応用酵素医学研究所㈱）

・徳島大学発のベンチャー企業。

・大学から紹介を受け、政府系研究開発資金獲得と融資で支援。



産学連携　共同訪問（初回面談）推移

共同訪問先数76先
共同研究の動き18先